

平成 27 年 3 月 11 日 (金) 11 時～13 時

あれから4年

3、11・東日本大震災鎮魂・慰霊祭

大鳥居他・・・復興報告祭

青葉神社

大鳥居の復興支援会

青葉神社・敬愛会

(一) 神事 神社拝殿で斎行いたします。

献笛曲・[うつくしま] 山口流篠笛青葉会

(二) 直会次第

1、開会の言葉	司会者：佐山 暢一 法螺貝：佐藤文彦
2、ご挨拶	宮 司 片倉 重信
3、感謝状贈呈	” ”
4、ご挨拶	御当主 伊達 泰宗様
5、献 杯	
6、懇 親	
7、余 興	さんさしぐれ ★仙臺さんさしぐれ踊普及会
8、余 興コラボ	★民謡；蕎謡会・ ★百華舞踊会 1、仙台節 2、広瀬川恋歌 3、えんころ節 4、大漁唄込み
9、御開き	

以上



感謝状

株式会社深松組

代表取締役

深松 努 殿

東日本大震災復興事業にあたり
大鳥居再建支援金御寄進を始め
神池護岸石積修復・石灯笼復旧工
事費の全てを御寄進下さるなど
更にその工事に当りては最善の
技術を以って立派に完工され御
神威弥益々に輝く清く美わしき
神域と成したるその篤志を讃え
茲に深く感謝の意を表します

平成二十七年三月十一日

青葉神社 宮司 片倉重信

印

感謝

東日本大震災復興事業

大鳥居再建工事 燈籠復旧工事・神池護岸石積修復工事等

此の度 無事完了致しました
賜りました御支援にたいし衷心より感謝の意を表します

平成二十七年三月十一日

青葉神社 宮司 片倉重信

印



東日本大震災復興事業

大鳥居再建及び灯籠復旧工事

神池護岸石積修復工事

完了報告書

東日本大震災復興事業報告

あの大地震から四年が経ち、神社の境内もようやく元の清浄さを取り戻してきました。あの日、見舞に掛け付けて下さりまた、震災復興のたしにと浄財をもってご支援下さった方々に心から御礼申し上げます。

皆様から寄せられたご支援により、倒壊した鳥居の再建や灯籠の修復、神池の護岸石積修復工事など、全て完工出来ましたこと誠に有り難く感謝申し上げます。

今回の修復工事に当たっては、昭和五年の宮城県沖地震により倒壊し、火袋破損のため、笠だけの姿になっていた灯籠等全て、基礎からの建て直し積み直しをしました。大鳥居は、昭和五年の地震では倒れなかったが台座の所で、柱の横に三分の二程までの亀裂が入っていたことが分かり、三十年間よく倒れずにいたものとはらはらせられました。

鳥居再建工事に当たっては建設費調達がつかず延び延びになっておりましたが、神から急ぐな、待て待てと何度も言われておりました。

青銅の灯籠は、直ぐに修復したのですが、二度も御神木の太枝落下により破損し、事を急いで無駄な損失をまねく結果となってしまいました。

その後、平成二五年一〇月二日伊勢神宮の御遷宮の日、遥拝を終えた所で、政宗公から「いよいよ多くの神々が動かれるぞ、復興の事も動くぞ」と示され「速やかに生まれ変われよ！」と何度も何度も言われて来られました。

すると、一二月に入って二名の方より、多額の御寄附が寄せられ、鳥居再建の目途が立ち、着工を決める事が出来ました。灯籠、池の修復は当分出来ないと思っていたところ、平成二六年篤志家より、灯籠、神池護岸石積工事の全ての費用の寄進の申出あり、一気に春の祭典日迄に完工することが出来るという人知では計り知れない神の力を感じるようになりました。待ては待て、急げは急げ、神の言葉を素直に受けて進みたいと思わずにはいられません。

御神威あらたかなこの青葉神社から、世界中の人々の心の平和への速やかな甦りを祈ります。

平成二三年三月九日〜一〇日震度三〜四の地震あり、
平成二三年三月十一日午後二時四六分震源三陸沖

東日本を襲う震度六強の大地震発生

太平洋沿岸大津波に襲われる

同日午後三時十五分震度五弱の地震あり

○大鳥居倒壊・石灯籠のほとんど倒れる

平成二三年四月五日

○倒壊鳥居を参道脇へ寄せて通路を確保

平成二三年四月七日夜二時三二分

震源宮城沖震度六の地震発生

○祖霊社の池の石垣崩れる

平成二三年五月十六日

○青銅の灯籠修復・狛犬・灯籠修理並整理

平成二三年一二月一二日〜一四日

○鳥居撤去のため参道へ鉄板を敷く

○鳥居をモニメントとして残すため参道脇の一ヶ所へまとめる

平成二三年一二月二三日

○鳥居倒壊により破損した石畳の補修工事

平成二四年一月四日

○雪と風により杉の大枝落下、直下の青銅の灯籠倒壊、火袋破損により笠のみを載せる

平成二四年二月二日

敬愛会より大鳥居再建支援金四五五万円

寄進あり

その後大鳥居再建に向けて各所に見積らせる

も一千万以上の費用の捻出に苦慮、再建は遅々

として進まず。

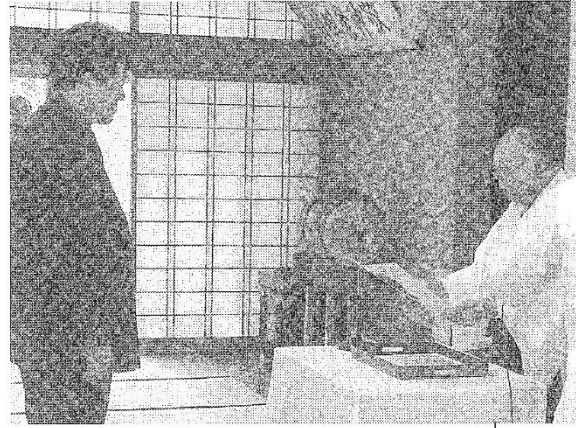


鳥居建立に当たって神から示されたのは、結界としての鳥居ではなく、宇宙的規模の大きな門でなければならぬ。そのためには、鳥居に次の紋を刻めと示されたのが太陽と月と地球を表すこの紋である。

右の柱に○と真ん中に・、左の柱には三日月の形を、それらの二つを合わせた紋を正面に刻み、「火水土（かみど）の紋」と呼ぶようにと政宗公より示された。この紋を刻むことにより、三次元の小さな鳥居が宇宙的な規模の大きな門になり、太い光の柱が天に伸び、偉大なる神々の降りてこれる聖地となると言われた。

鳥居が倒れてから素晴らしい「神の気」が神社の方から街中に流れてきていると感じている人が数多くおり、光の柱を辿って来たら青葉神社に来てしまったという人たちが増えている。





深松社長（左）に支援の感謝状が贈られた

青葉神社から感謝状

深松組（深松努代表取締役社長・仙台市青葉区）は11日、東日本大震災で被災した青葉神社の大鳥居の再建を支援し、宮司の片倉重信氏から感謝状が贈られた。被災した建造物の再建費計2400万円の半分を寄進し、神池護岸の復旧にも尽力した。

同社は、青葉神社で工事の安全を祈願している。おかげ

再建の折念に設置された石碑

深松組が鳥居再建支援

で大きな事故がないという。再建資金の寄進は、無事故のお礼を込めて深松社長が申し出た。神社は資金不足で復旧に取りかかれずにいたが、同社の資金提供により再建を決め、26年1月に復旧工事に着手することができた。

感謝状の贈呈は、東日本大震災の慰霊祭と併せて、大鳥居復興報告会で表彰式を行い、深松社長が感謝状を受け取った。再建折念で設置された石碑には、社名が刻まれた。同社のほか、スリーインストーン（仙台市青葉区）、上郡店（仙台市宮城野区）らも再建を支援した。

青葉神社は、仙台市青葉区青葉町に伊達政宗の祭神として創建された。震災では高さ約10mの大鳥居（御影石）が台座から倒れ、石灯籠や神池の護岸石も崩れた。寄付金など、再建費の寄進により、新たな大鳥居の基礎工事や、灯籠、神池の復旧工事を進め、震災後3年ですべての工事を完了した。

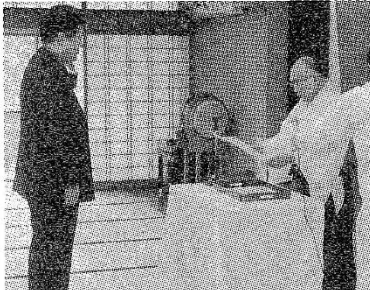
同年5月に伊達政宗の命日で、神社祭礼の市民まつり「青葉まつり」の開催を迎えることができた。

深松組に感謝状贈呈

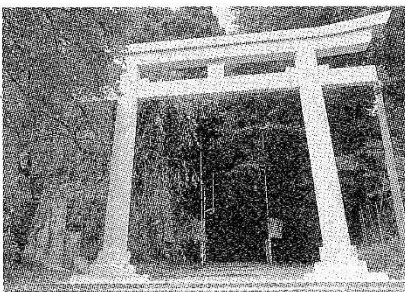
青葉神社 復興工事を完了を報告

伊達政宗を祭神として創建された仙台市の青葉神社は11日、復興報告会を行い、大鳥居・灯籠の復旧に携わった深松組（深松努社長）に感謝状を贈呈した。

青葉神社では東日本大震災で大鳥居が倒壊したほか、灯籠や神池の護岸が被災した。これを受けて深松組が再建・修復に当たり、昨年5月に完了。同年7月に「震災復興工事寄進の碑」を奉納した。報告会では関係者約70人が出席する中、片倉重信宮司が復興事業の経緯を説明し、深松社長に感謝状を手渡した。



片倉宮司から感謝状を贈呈される深松社長（左）



完成した大鳥居